

空気読みと感覚

(兵庫県立北摂三田高等学校 HGLC)

序論

①研究テーマを取り巻く現状

空気を読むという文化が日本人の奥底まで浸透して いる日本
空気を読みすぎるがあまり、自分の意見を表せない 人も大勢いる
逆に全く空気を読めない人もいる
程よく空気を読める人が好まれる

②リサーチクエスションの内容

人は何を基準にして空気を読んでいるのか？

先行研究と仮説

①先行研究と過去の取り組みから、解明解決の内容と、未解明・未解決の内容を明らかにする

- ・ 視覚情報は脳に届く情報の8割を占めているといわれている
- ・ 聴覚情報の方が速く脳に届く
- ・ 聴覚情報が視覚情報の理解を補助する

②研究に取り組む意義

空気を読むために、視覚、聴覚のどちらが優位にはたらいっているか

③仮説

空気を読むためには、聴覚の方が優位にはたらいっている

仮説の根拠／研究手法・結果考察 ①

①自分の立てた仮説とその根拠

聴覚情報を使った思考の方が空気を読むことに貢献

②研究手法

- ・ 調査実験で何を得たいか

仮説が一理あるものだと証明できる結果

- ・ 調査・実験の手順

アンケート→分析→アンケートか簡単な実験→分析

実験内容

日常の1コマのシチュエーションを伝える

①会話の音声を聞いてどんな行動をとろうと思うか考えてもらう

②その画像を見てどんな行動をとろうと思うか考えてもらう

仮説の根拠／研究手法・結果考察 ②

実験結果・聴覚情報のみ

(行動の比較)

赤 - 空気を読んでいない

青 - 空気を読んだ

- ・ 視覚情報のみ

(行動の比較)

赤 - 空気を読んでいない

青 - 空気を読んだ

アンケート結果

赤 - 空気を読まない

青 - 空気を読む

結果考察

聴覚情報があった方が空気を

空気を読みやすい

空気を読もうとする人はとても多い

結論・展望

①結論

実験の結果より、自分が立てた仮説は、今のところは正しいという結果を得られた。また、空気を読むという行為をしている人の多さに気づくことができた。

②展望

アンケートの結果より、空気を読むという行為をしている人の多さが、実験の結果より、視覚と聴覚が空気読みに与える影響を目に見える結果として得ることができてよかった。

まだまだ簡単で単純なアンケートや実験しか行っていないので、ここで得た結果が答えにはなることはないので、よりよいアンケートや実験をこれから実施して、もっとしっかりとした根拠を持った結果を得られるように改善を重ねていきたい。

参考文献

Tec25_1_18.pdf

https://www.jstage.jst.go.jp_pdf